

フィデリティ・ ストラテジック・ インカム・ファンド

Aコース(為替ヘッジ付き) /
Bコース(為替ヘッジなし)

愛称：悠々債券^{ゆう ゆう さい けん}

追加型投信 / 内外 / 債券
2013.4.20

毎月
決算

ファンド名	商品分類			属性区分				
	単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)	投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
Aコース(為替ヘッジ付き)	追加型投信	内外	債券	その他資産(投資信託 証券(債券(一般)))	年12回 (毎月)	日本、北米、欧州、 エマージング	ファミリー ファンド	あり(フルヘッジ)
Bコース(為替ヘッジなし)								なし

※属性区分に記載している「為替ヘッジ」は、対円での為替リスクに対するヘッジの有無を記載しております。

※商品分類及び属性区分の定義については、一般社団法人投資信託協会のホームページ(<http://www.toushin.or.jp>)をご参照ください。

※ファンドの名称について、「フィデリティ・ストラテジック・インカム・ファンド Aコース(為替ヘッジ付き)」を「フィデリティ・ストラテジック・インカムA」、「フィデリティ・ストラテジック・インカム・ファンド Bコース(為替ヘッジなし)」を「フィデリティ・ストラテジック・インカムB」ということがあります。

- 本書は、金融商品取引法(昭和23年法律第25号)第13条の規定に基づく目論見書です。
- 投資信託説明書(請求目論見書)は、委託会社のホームページで閲覧、ダウンロードできます。また、本書には投資信託約款の主な内容が含まれておりますが、投資信託約款の全文は投資信託説明書(請求目論見書)に掲載されております。
- ファンドの販売会社、ファンドの基準価額等の詳細情報は、下記委託会社の照会先までお問い合わせください。

委託会社 [ファンドの運用の指図を行なう者]

フィデリティ投信株式会社

金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第388号

設立年月日：1986年11月17日

資本金：金10億円(2013年2月末現在)

運用する投資信託財産の合計純資産総額…

2兆8,624億円(2013年2月末現在)

受託会社 [ファンドの財産の保管及び管理を行なう者]

三井住友信託銀行株式会社

●この投資信託説明書(交付目論見書)により行なうフィデリティ・ストラテジック・インカム・ファンド Aコース(為替ヘッジ付き)及びフィデリティ・ストラテジック・インカム・ファンド Bコース(為替ヘッジなし)の募集については、委託会社は、金融商品取引法第5条の規定により有価証券届出書を2013年4月19日に関東財務局長に提出し、2013年4月20日にその届出の効力が生じております。

●ファンドの商品内容に関して重大な変更を行なう場合には、投資信託及び投資法人に関する法律(昭和26年法律第198号)に基づき、事前に投資者の皆様にご意向を確認させていただきます。

●ファンドの財産は、信託法(平成18年法律第108号)に基づき受託会社において分別管理されています。

●投資信託説明書(請求目論見書)は、販売会社にご請求いただければ当該販売会社を通じて交付いたします。なお、販売会社にご請求された場合は、その旨をご自身で記録しておくようにしてください。

●ご購入に際しては、本書の内容を十分にお読みください。

〈照会先〉 **フィデリティ投信株式会社**

●フリーコール： **0120-00-8051** (受付時間：営業日の午前9時～午後5時)

●ホームページ：<http://www.fidelity.co.jp/fij/>



1. ファンドの目的・特色

ファンドの目的

ファンドは、高水準の利息等収入の確保とともに信託財産の成長を図ることを目的として運用を行ないます。

ファンドの特色

- 1 性格の異なる世界の代表的な4債券セクターへ投資することにより、リスク分散を図りながら、利息等収入の確保を図るとともに値上がり益の追求を目指します。
- 2 毎月決算を行ないます。
- 3 米国国債／政府機関債、米国高利回り社債（ハイ・イールド・ボンド）、先進国債券（除く米国）およびエマージング債券を主要な投資対象として分散投資を行ない、利息等収入の確保と値上り益の追求を目指します。
- 4 各投資対象についての長期的な分析から資産配分を算出し、長期的にこの配分を維持するアプローチを基本とした運用を行ないます。
- 5 異なる性格を持つ債券セクターを組み合わせることにより、ポートフォリオ全体のリスクの低減効果が期待できます。
- 6 債券等の発行体の信用力分析にあたっては、アナリストによる独自の企業調査情報等を活用し、計量分析も用いて銘柄の選別を行ないます。
- 7 ポートフォリオ構築にあたっては、分散投資を基本としリスク分散を図ります。
- 8 債券等の組入比率は、原則として高位を維持します。ただし、市況動向等により弾力的に変更を行なう場合があります。
- 9 Aコース（為替ヘッジ付き）は、為替ヘッジ付きのインデックスが存在しないため、ベンチマークを設定しません。
Bコース（為替ヘッジなし）のベンチマークは、複合ベンチマーク（円ベース）*1とします。

債券セクター	ベンチマーク	構成割合
米国国債／政府機関債	バークレイズ米国政府債インデックス	30%
先進国債券（除く米国）	シティグループG7インデックス（除く米国、ヘッジなし）*2	15%
米国高利回り社債（ハイ・イールド・ボンド）	バンクオブアメリカ・メリルリンチ・USハイ・イールド・コンストレインド・インデックス	40%
エマージング債券	JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・グローバル	15%

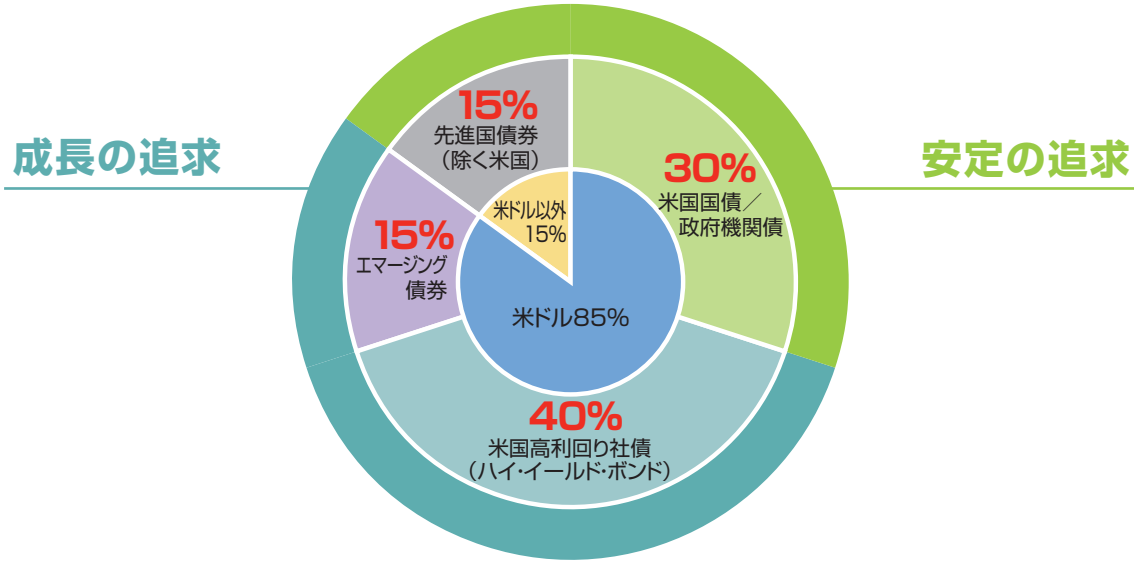
*1 複合ベンチマーク（円ベース）は、複数の債券指数によって構成され当社で算出しているもので、上記の割合で構成されています。

*2 同指数は、構成国の比重が等配分された、シティグループ・グローバル・マーケットによるカスタマイズ・インデックスです。

※資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合もあります。

※ファンドは「フィデリティ・ストラテジック・インカム・マザーファンド」を通じて投資を行ないます。上記はファンドの主たる投資対象であるマザーファンドの特色および投資方針を含みます。

[ファンドの基本資産配分]



※投資環境、資金動向等によっては、上記配分と異なる可能性もあります。実際の運用上でこれらの数値を保証するものではありません。
 また、ファンドの運用においては、各セクターへの投資比率に制限を設けるものではありません。
 ※上記の内容は、2013年4月現在のものであり、今後変更となる場合があります。

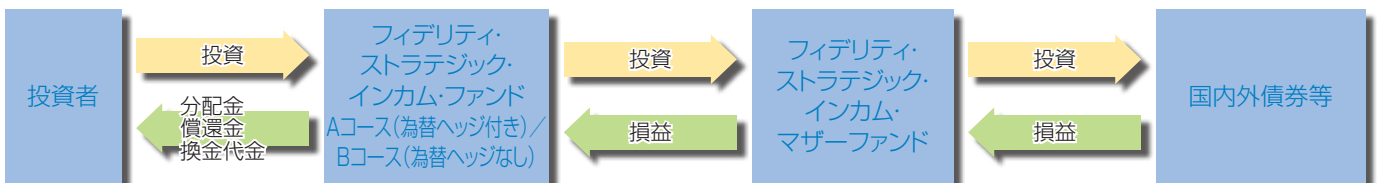
[運用の委託先]

マザーファンドにかかる運用につき、次の委託先に運用の指図に関する権限を委託します。

委託先名称	委託する業務の内容
FILインベストメンツ・インターナショナル	委託会社より運用の指図に関する権限の委託を受け、マザーファンドの先進国債券(除く米国)に関する運用の指図を行ないます。
フィデリティ・マネジメント・アンド・リサーチ・カンパニー	委託会社より運用の指図に関する権限の委託を受け、マザーファンドのアセット・アロケーション、米国国債/政府機関債、米国高利回り社債(ハイ・イールド・ボンド)、エマーシング諸国等に関する運用の指図を行ないます。

- ※運用の委託先が、法律に違反した場合、信託契約に違反した場合、信託財産に重大な損失を生ぜしめた場合等において、委託会社は、運用の指図に関する権限の委託を中止または委託の内容を変更することができます。
- ※FILインベストメンツ・インターナショナルおよびフィデリティ投信株式会社は、FILリミテッドの実質的な子会社です。FILリミテッドは、資産運用業界におけるグローバル・リーダーとして、英国、欧州、中近東およびアジア太平洋地域を含む世界20以上の国や地域で、個人投資家や機関投資家に向け、幅広い資産運用サービスを提供しています。
- ※フィデリティ・マネジメント・アンド・リサーチ・カンパニー(FMR Co)は、北米の投資家向けの資産運用サービス、およびFMR LLCが提供するミューチュアル・ファンド商品群の運用を行なう事を目的に1946年に設立されました。株式、ハイ・イールド債券、債券、マネー・マーケット、オルタナティブを含む全ての主要資産クラスを対象とした運用を行なっています。

ファンドの仕組み



ファンドはマザーファンドへの投資を通じて、主として国内外債券等へ実質的に投資を行なう、「ファミリーファンド方式」です。

主な投資制限

債券等への実質投資割合	制限を設けません。
株式への実質投資割合	信託財産の純資産総額の30%以下とします。
外貨建資産への実質投資割合	制限を設けません。

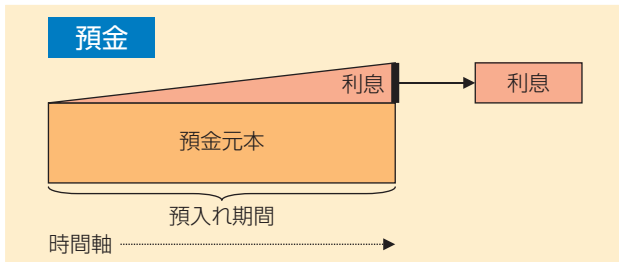
収益分配方針

毎決算時(原則毎月20日。同日が休業日の場合は翌営業日。)に、原則として以下の収益分配方針に基づき分配を行ないます。

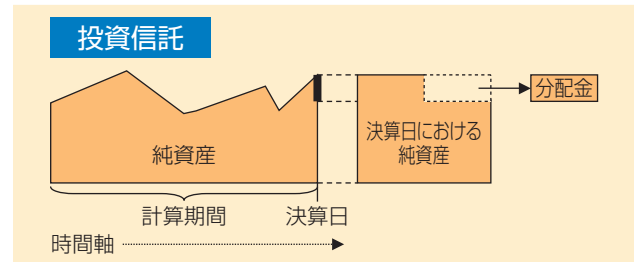
- 分配対象額の範囲は、繰越分を含めた利息等収入と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。
- 収益分配金額は、委託会社が基準価額の水準等を勘案して決定します。※ただし、必ず分配を行なうものではありません。
- 留保益の運用については特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行ないます。
※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

[収益分配金に関する留意事項]

分配金は、預貯金の利息とは異なります。分配金の支払いは純資産から行なわれますので、分配金支払い後の純資産は減少することになり、基準価額が下落する要因となります。



(注) 預金は定率の円建て預金をイメージして記載しています。預金元本は必ずしも全額保証されているものではありません。

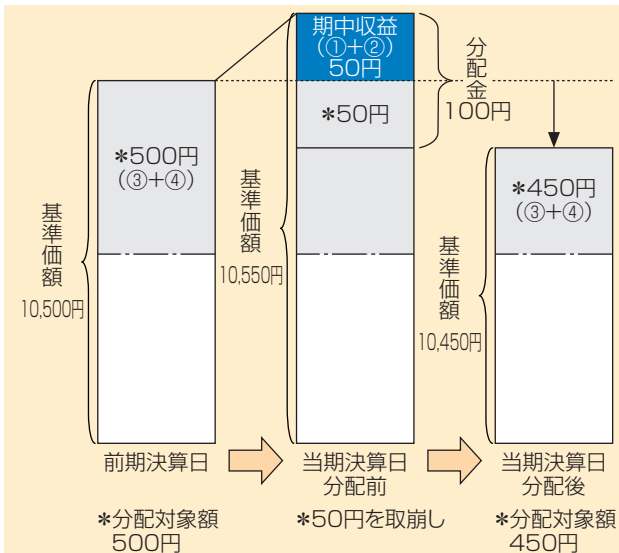


(注) 投資信託の純資産から支払われる分配金をイメージして記載しています。

分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の利子・配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。計算期間におけるファンドの運用実績は、期中の分配金支払い前の基準価額の推移および収益率によってご判断ください。

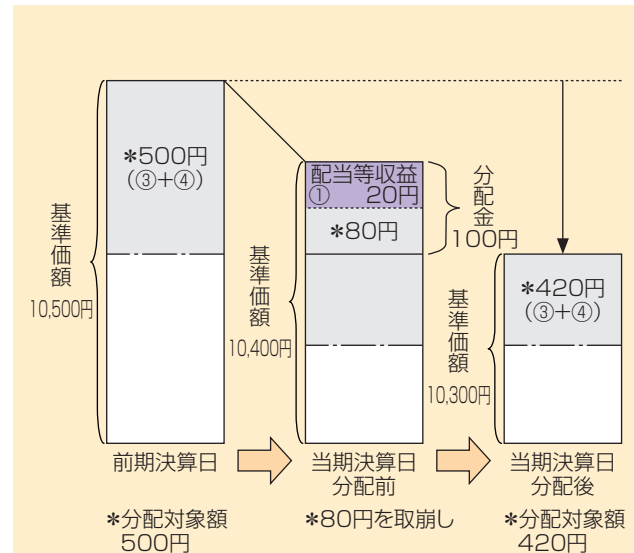
投資信託は、当期の収益の他に、ファンドの設定から当期以前の期間に発生して分配されなかった過去の収益の繰越分等からも分配することができます。

前期決算から基準価額が上昇 当期計算期間の収益がプラスの場合



* 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、収益分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。
* 上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

前期決算から基準価額が下落 当期計算期間の収益がマイナスの場合

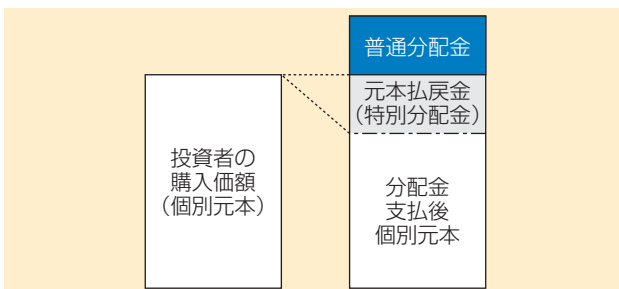


投資者のファンドの購入価額によっては分配金はその支払いの一部、または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。

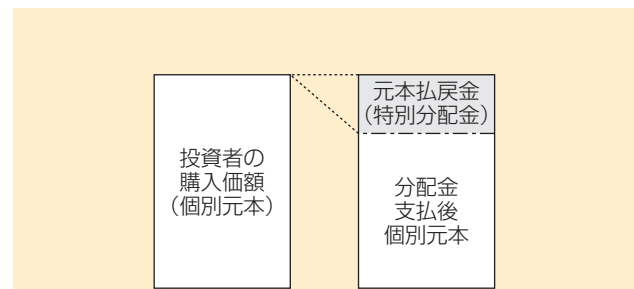
ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

ファンドの購入価額は、個々の投資者によって異なりますので、投資期間全体での損益は、個々の投資者によって異なります。

分配金の一部が実質的に元本の一部払戻しに相当する場合



分配金の全部が実質的に元本の一部払戻しに相当する場合



・「個別元本」とは、追加型投資信託の収益分配金や解約(償還)時の収益に対する課税計算をする際に用いる個々の投資者のファンドの購入価額のことを指します。

・「普通分配金」とは、個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

・「元本払戻金(特別分配金)」とは、個別元本を下回る部分からの分配金です。実質的に元本の払戻しに相当するため、非課税扱いとなります。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

* 普通分配金に対する課税については、「4. 手続・手数料等」の「ファンドの費用・税金」をご参照ください。

2. 投資リスク

基準価額の変動要因

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので基準価額は変動し、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様に帰属します。したがって、投資者の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。

ファンドが有する主なリスク等(ファンドが主に投資を行なうマザーファンドが有するリスク等を含みます。)は以下の通りです。

主な変動要因

価格変動リスク	基準価額は有価証券等の市場価格の動きを反映して変動します。有価証券等の発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなる場合があります。
信用リスク	有価証券等への投資にあたっては、発行体において利払いや償還金の支払いが遅延したり、債務が履行されない場合があります。なお、ハイ・イールド債およびエマージング・マーケット債に投資を行なう場合には、上位に格付された債券に比べて前述のリスクが高くなります。
金利変動リスク	公社債等は、金利の変動を受けて価格が変動します。一般に金利が上昇した場合には債券価格は下落し、金利が低下した場合には債券価格は上昇します。
為替変動リスク	Aコース(為替ヘッジ付き)は為替ヘッジを行なうことで、為替変動リスクの低減を図りますが、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。なお、為替ヘッジを行なう際には当該通貨と円の金利差相当分のヘッジコストがかかる場合があります。Bコース(為替ヘッジなし)は為替ヘッジを行なわないため、外貨建の有価証券等に投資を行なう場合には、その有価証券等の表示通貨と日本円との間の為替変動の影響を受けます。
エマージング市場に関わるリスク	エマージング市場(新興諸国市場)への投資においては、政治・経済的不確実性、決済システム等市場インフラの未発達、情報開示制度や監督当局による法制度の未整備、為替レートの大きな変動、外国への送金規制等の状況によって有価証券の価格変動が大きくなる場合があります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

クーリング・オフ	ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
----------	--

上記の他、Bコース(為替ヘッジなし)には下記の留意点もあります。

ベンチマークに関する留意点	ファンドのパフォーマンスは、ベンチマークを上回る場合もあれば下回る場合もあり、ベンチマークとの連動を目指すものではありません。また、投資対象国または地域の市場の構造変化等によっては、ファンドのベンチマークを見直す場合があります。
---------------	--

リスクの管理体制

投資リスク管理および投資行動のチェックについては、運用の委託先の運用部門が自ら行なう方法と、運用の委託先の運用部門から独立している運用に関するコンプライアンス部門が行なう方法を併用し検証しています。

- **運用部門** 部門の担当責任者と運用の指図を行なうポートフォリオ・マネージャーが、さまざまなリスク要因について協議し、ポートフォリオ構築状況をレビューしています。
- **運用に関するコンプライアンス部門** 法令および各種運用規制等の遵守状況について、モニタリングの結果を運用部門等にフィードバックしています。

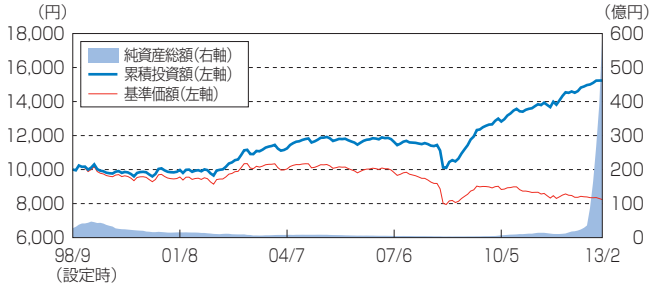
3. 運用実績

(2013年2月28日現在)

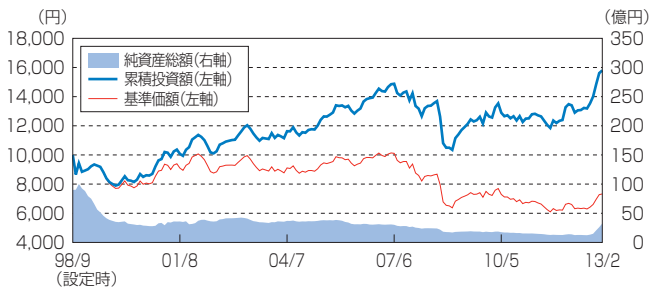
※運用実績等について別途月次等で適時開示している場合があります。この場合、委託会社のホームページにおいて閲覧できます。
 ※下記データは過去の実績であり、将来の成果を保証するものではありません。
 ※別途記載がない限り、主要な資産の状況は対純資産総額比率です。
 ※各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。
 ※未払金等の発生により、「現金-その他」の数値がマイナスになることがあります。

基準価額・純資産の推移

Aコース(為替ヘッジ付き)



Bコース(為替ヘッジなし)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。
 ※基準価額は運用管理費用(信託報酬)控除後のものです。

主要な資産の状況(マザーファンド)

資産別組入状況

債券	79.3%
新株予約権付社債(転換社債)	0.0%
株式	0.2%
新株予約権証券(ワラント)	-
現金-その他	20.4%

組入上位10銘柄

順位	銘柄	国*	格付	比率
1	UST NOTE 0.875% 2018/01/31	アメリカ	AA/Aa	3.9%
2	GERMANY GOVT 2% 2022/01/04	ドイツ	AAA/Aaa	3.0%
3	UST NOTES 0.25% 2015/01/31	アメリカ	AA/Aa	2.2%
4	USTN 1.25% 2020/02/29	アメリカ	AA/Aa	2.1%
5	USTN 0.375% 2016/01/15	アメリカ	AA/Aa	2.1%
6	第308回 10年国債 1.3% 2020/06/20	日本	AA/Aa	1.9%
7	CANADA GOVT 3.25% 2021/06/01	カナダ	AAA/Aaa	1.7%
8	UK GILT 4% 2022/03/07	イギリス	AA/Aa	1.6%
9	USTN 0.375% 2016/02/15	アメリカ	AA/Aa	1.6%
10	USTN 0.25% 2014/04/30	アメリカ	AA/Aa	1.5%

(※発行体の国籍ベース)

国別組入状況(発行体の国籍ベース)

アメリカ	48.7%
ドイツ	4.5%
カナダ	3.0%
イギリス	2.3%
日本	2.3%
イタリア	1.8%
ベネズエラ	1.5%
ルクセンブルグ	1.3%
メキシコ	1.1%
その他	13.2%

格付別組入状況(対投資債券比率)

AAA/Aaa	8.7%
AA/Aa	42.6%
A	1.6%
BBB/Baa	9.1%
BB/Ba	16.3%
B	15.3%
CCC/Caa	3.8%
CC/Ca以下	0.2%
格付なし	2.5%

通貨別組入状況(対投資資産比率)

アメリカドル	81.6%
ユーロ	9.3%
カナダドル	3.1%
日本円	2.9%
イギリス・ポンド	2.8%
その他	0.4%

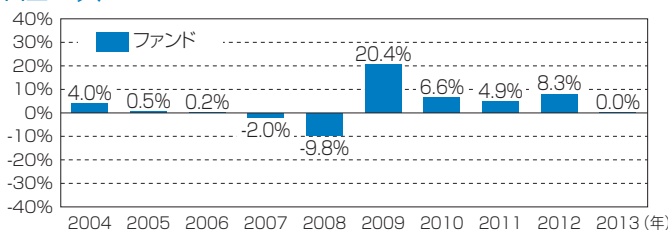
組入債券種別内訳(対投資債券比率)

米国国債-政府機関債	35.5%
ハイ・イールド・ボンド	30.2%
先進国債券(除く米国)	17.9%
エマーシング債券	16.4%

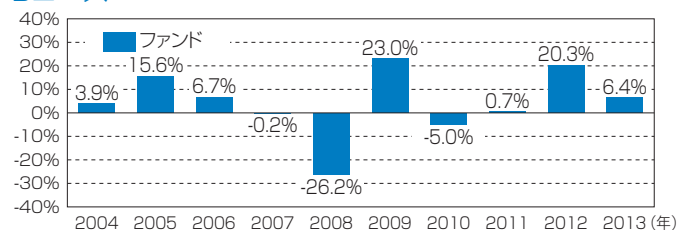
※格付は、S&P社もしくはムーディーズ社による格付を採用し、S&P社の格付を優先して採用しています。「(プラス/マイナス)」の符号は省略しています。なお、両社による格付のない場合は、「格付なし」に分類しています。

年間収益率の推移

Aコース(為替ヘッジ付き)



Bコース(為替ヘッジなし)



※Aコース(為替ヘッジ付き)は、ベンチマークを設定しておりません。
 ※ファンドの収益率は、収益分配金(税込)を再投資したものとみなして算出しています。
 ※2013年は年初以降2月末までの実績となります。

4. 手続・手数料等

お申込みメモ

購入単位	販売会社がそれぞれ定める単位とします。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
購入代金	販売会社が定める期日までに、お申込みの販売会社にお支払いください。
換金単位	販売会社がそれぞれ定める単位とします。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目から、お申込みの販売会社にてお支払いします。
申込締切時間	原則として、販売会社の営業日の午後3時までに、販売会社が受付けたものを、当日のお申込み受付分とします。
購入・換金 申込不可日	ニューヨーク証券取引所の休業日においては、スイッチングを含めお申込みの受付は行ないません。
購入の申込期間	2013年4月20日から2014年4月18日まで ※申込期間は上記の期間終了前に、ファンドの有価証券届出書を提出することにより更新されます。
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行なうため、大口のご換金には別途制限を設ける場合があります。
購入・換金 申込受付の中止 及び取消し	取引所等における取引の停止、その他やむを得ない事情等があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、及び既に受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消す場合があります。
信託期間	原則として無期限(1998年9月30日設定)
繰上償還	ファンドの受益権の残存口数がAコース(為替ヘッジ付き)及びBコース(為替ヘッジなし)の合計で30億口を下回った場合等には、繰上償還となる場合があります。
決算日	原則、毎月20日 ※決算日にあたる日が休業日となった場合、その翌営業日を決算日とします。
収益分配	年12回、収益分配方針に基づいて、分配を行ないます。ただし、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。 販売会社との契約によっては、収益分配金は、税引き後無手数料で再投資が可能です。
信託金の限度額	Aコース(為替ヘッジ付き)及びBコース(為替ヘッジなし)の合計で5,000億円
公 告	委託会社が投資者に対してする公告は、日本経済新聞に掲載します。
運用報告書	毎年1月、7月に到来するファンドの計算期間終了後及び償還時に運用報告書を作成し、知っている投資者に対して交付します。
課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。 配当控除、益金不算入制度の適用はありません。
スイッチング	販売会社によっては、Aコース(為替ヘッジ付き)、Bコース(為替ヘッジなし)間にてスイッチングが可能です。スイッチングに伴うご換金にあたっては、通常のご換金と同様に税金がかかります。 ※スイッチングの取扱い内容等について、詳しくは、販売会社へお問い合わせください。

ファンドの費用・税金

[ファンドの費用]

投資者が直接的に負担する費用									
購入時手数料	3.15%(税抜3.00%)を上限 として販売会社が定めます。								
信託財産留保額	ありません。								
投資者が信託財産で間接的に負担する費用									
運用管理費用 (信託報酬)	<p>ファンドの純資産総額に対し、年1.5015%(税抜1.43%)の率を乗じた額が運用管理費用(信託報酬)として毎日計算され、ファンドの毎計算期末または信託終了のときにファンドから支払われます。</p> <p>【運用管理費用(信託報酬)の配分】 (年率)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ファンドの純資産総額に対して</th> <th>年率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>委託会社</td> <td>0.74025%(税抜0.705%)</td> </tr> <tr> <td>販売会社</td> <td>0.70875%(税抜0.675%)</td> </tr> <tr> <td>受託会社</td> <td>0.0525% (税抜0.05%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>マザーファンドの運用の指図に関する権限の委託を受けた者に対する報酬は、ファンドから委託会社が受ける運用管理費用(信託報酬)の中から支払われます。</p>	ファンドの純資産総額に対して	年率	委託会社	0.74025%(税抜0.705%)	販売会社	0.70875%(税抜0.675%)	受託会社	0.0525% (税抜0.05%)
	ファンドの純資産総額に対して	年率							
	委託会社	0.74025%(税抜0.705%)							
	販売会社	0.70875%(税抜0.675%)							
受託会社	0.0525% (税抜0.05%)								
組入有価証券の売買委託手数料、立替金の利息等	ファンドからその都度支払われます。ただし、運用状況等により変動しますので、事前に料率、上限額等を表示できません。								
その他費用・手数料	<p>法定書類等の作成等に要する費用、監査費用等</p> <p>ファンドの純資産総額に対して年率0.10%(税込)を上限とする額がファンドの計算期間を通じて毎日計上され、毎年1月及び7月に到来する計算期末または信託終了のときに、ファンドから支払われます。</p>								

※当該手数料・費用等の合計額については、投資者の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

[税金]

- 税金は表に記載の時期に適用されます。
- 以下の表は、個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。

時 期	項 目	税 金
分配時	所得税及び地方税	<p>配当所得として課税</p> <p>普通分配金に対して10.147%</p>
換金(解約)時及び償還時	所得税及び地方税	<p>譲渡所得として課税</p> <p>換金(解約)時及び償還時の差益(譲渡益)に対して10.147%</p>

※上記は2013年2月末現在のものです。2014年1月1日以降は20.315%となる予定です。

なお、税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。

※法人の場合は、上記とは異なります。

※税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

<XEM>

<X E>

